

2022年3月期第2四半期 決算説明会

2021年11月24日

ユニチカ株式会社

1. 2022年3月期第2四半期決算概要

2. 各事業セグメントの状況

3. 2022年3月期通期業績予想

1. 2022年3月期第2四半期決算概要

2. 各事業セグメントの状況

3. 2022年3月期通期業績予想

業績の概要

前年の新型コロナウイルス感染症の影響による需要減少から、自動車向け等で回復し、樹脂、フィルムを軸に売上増加。

営業利益は、原燃料価格上昇の影響を受けたが、販売数量が伸長し前年同期比6億円増益。

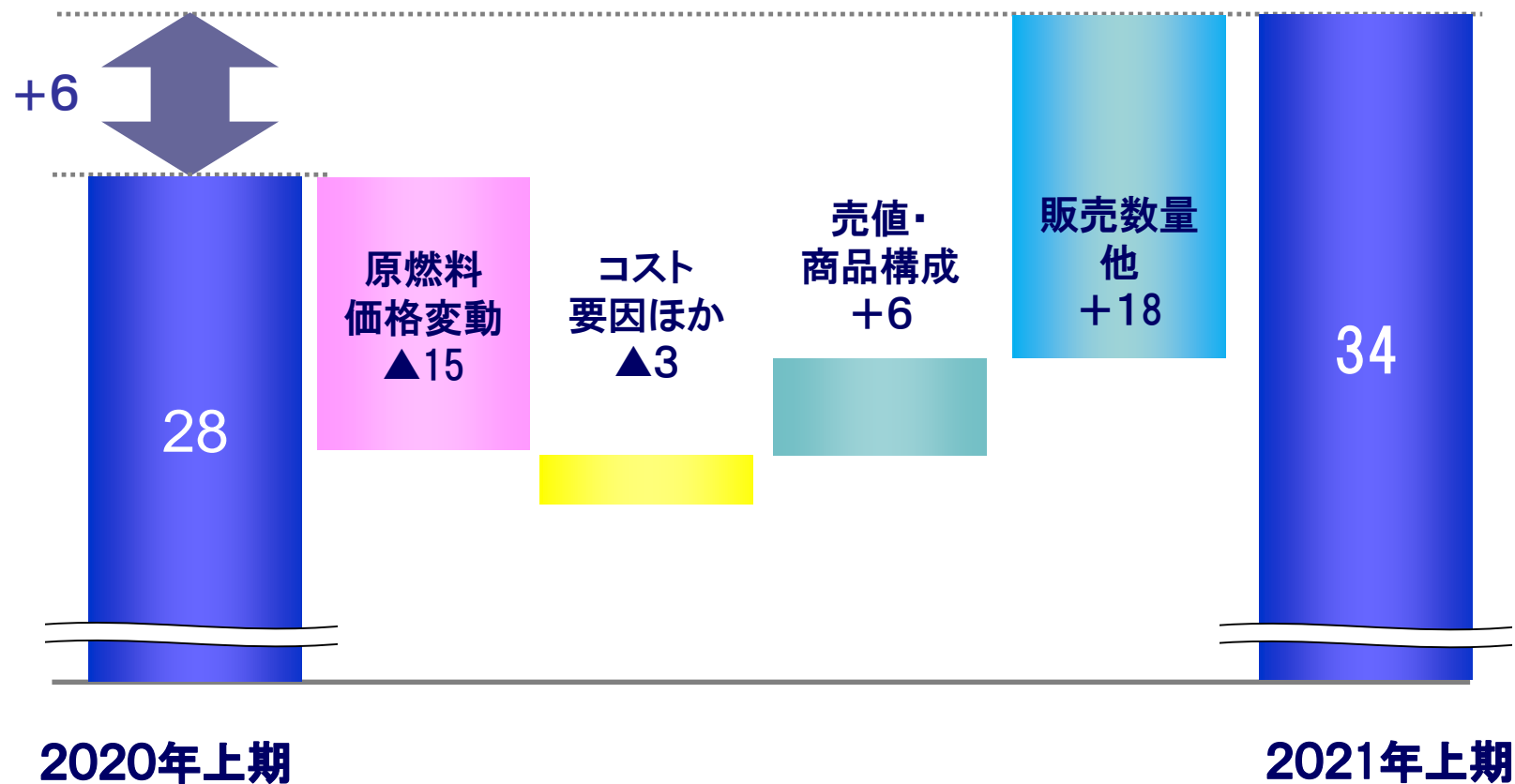
経常利益は、円安による為替差損益の好転もあり、前年同期比13億円の増益。

純利益は、前年、受取保険金を特別利益に34億円計上していたため（当上期は5億円）前年同期比▲15億円の減益。

連結合計 (金額単位:億円)	20年上期 実績	21年上期 実績	前期比増減	
			金額	率
売上高	548	555	+7	+1%
営業利益	28	34	+6	+21%
営業利益率	5.1%	6.1%	(1.0%)	—
営業外収益	3	3	▲0	▲2%
営業外費用	15	8	▲7	▲48%
経常利益	16	29	+13	+81%
特別利益	35	7	▲29	▲82%
特別損失	10	9	▲1	▲12%
税金等調整前 四半期純利益	42	27	▲15	▲35%
四半期純利益	37	22	▲15	▲41%
減価償却費	22	22	▲0	▲1%
設備投資	30	36	+5	+18%

営業利益変動要因分析

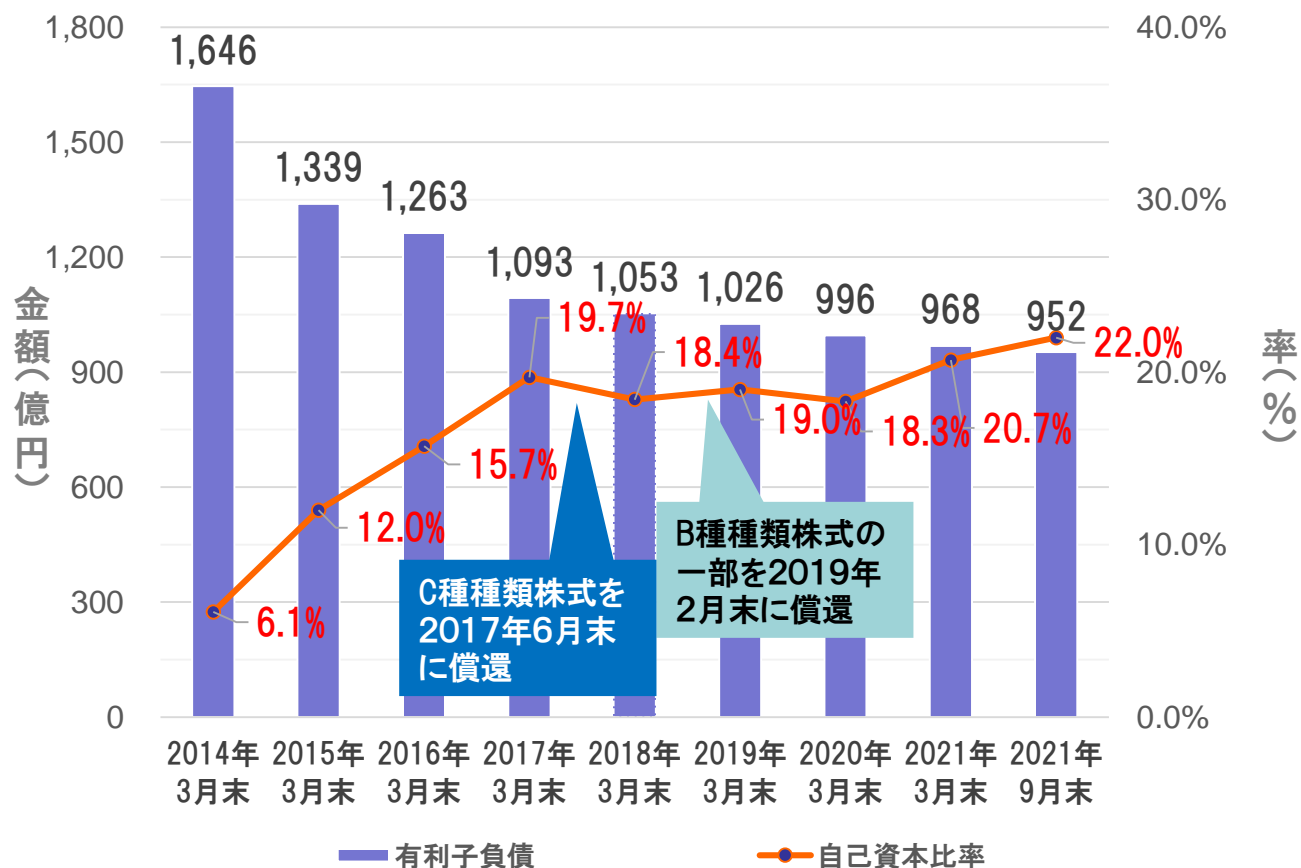
(金額単位: 億円)



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2021年3月末	2021年9月末	前期末比増減
資産合計	1,904	1,920	+16
流動資産	811	810	▲1
固定資産	1,093	1,110	+17
負債合計	1,492	1,479	▲13
純資産合計	389	441	+29
株主資本	389	408	+19
その他の包括利益累計額	6	16	+9
非支配株主持分	17	18	+1

有利子負債、自己資本比率の推移



財務体質の健全化

■有利子負債削減
2021年9月末は952億円となり、着実に削減は進んでいる。現預金を差し引いたネット有利子負債は728億円。

■自己資本比率
2021年9月末は2021年3月末と比較して1.3ポイント増加し22.0%となった。

1. 2022年3月期第2四半期決算概要

2. 各事業セグメントの状況

3. 2022年3月期通期業績予想

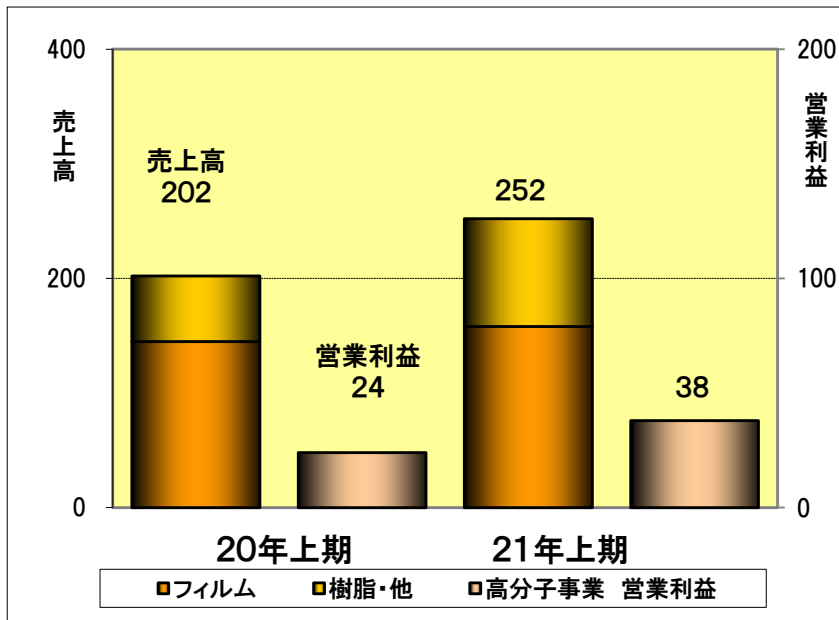
セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位:億円)	20年上期 実績	21年上期 実績	前期比増減	
			金額	率
売上高	548	555	+7	+1%
高分子事業	202	252	+50	+25%
機能資材事業	145	168	+23	+16%
繊維事業	201	135	▲66	▲33%
その他	0	0	0	—
営業利益	28	34	+6	+21%
高分子事業	24	38	+14	+59%
機能資材事業	3	0	▲3	▲93%
繊維事業	2	▲4	▲6	—
その他	▲0	▲0	+0	—

※当期からの収益認識会計基準等適用による売上高への影響額は▲14億円。事業セグメント別の影響額は、高分子+16億円、機能資材+12億円、繊維▲42億円でした。

フィルムは好調継続、樹脂は前年の新型コロナの需要減少から回復

(金額単位:億円)	20年上期	21年上期	増減
高分子事業 売上高	202	252	+50
フィルム	145	158	+13
樹脂・他	57	94	+37
高分子事業 営業利益	24	38	+14



□高分子

◆フィルム

◆包装分野

引き続き巣ごもり需要により食品包装など好調。バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」などの高付加価値品は国内外で好調。

CO₂排出量削減に貢献する環境配慮型食品包装フィルムの採用も拡大。

◆工業分野

半導体関連用途が好調、シリコンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」などの高付加価値品も好調。

◆樹脂

◆ナイロン樹脂

自動車用途や電気電子用途などが好調。

◆ポリアリレート樹脂「Uポリマー」

自動車用途や情報端末機器用途などで需要が堅調。

前年の需要減少から緩やかに回復、建築土木は遅れ。ICクロスは堅調。

(金額単位:億円)

	20年上期	21年上期	増減
機能資材事業 売上高	145	168	+23
ガラス繊維	38	43	+5
ガラスビーズ関連	12	14	+2
活性炭繊維(ACF)	9	11	+2
不織布	47	53	+6
産業繊維	39	47	+8
機能資材事業 営業利益	3	0	▲3

□機能資材

◆ガラス繊維・産業資材分野

電気電子分野関連資材用途で販売が回復、テント、シート等の建築土木用途は新型コロナによる前年の需要減少からの回復が遅れ苦戦。

◆ガラス繊維・電子材料分野

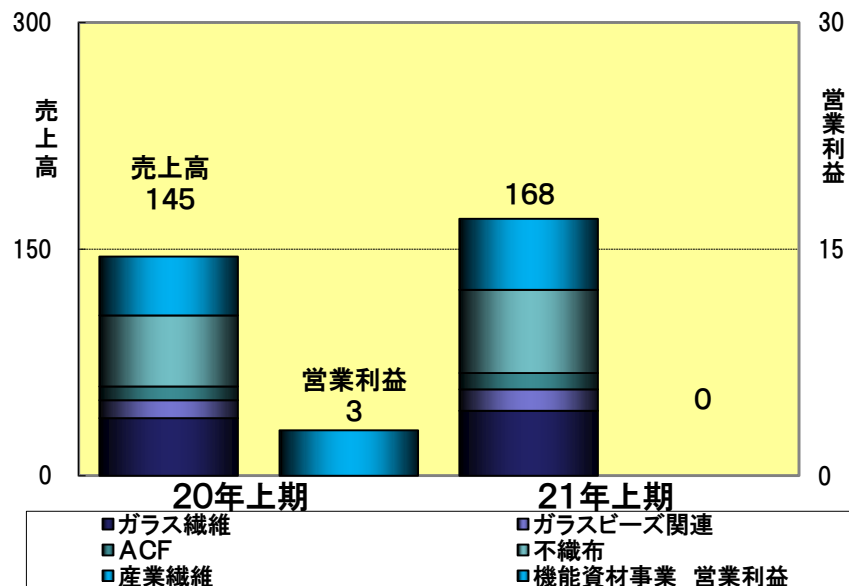
ICクロスは、情報端末及び周辺機器の半導体用途が好調に推移し、超薄物や低熱膨張タイプなどの高付加価値品の販売は好調。

◆ガラスビーズ関連

道路用途は、一部で需要回復の遅れや豪雨災害の影響もあり、販売は前年並み。反射材用途は、国内外での販売が伸長、工業用途も自動車の生産回復の影響を受け販売が伸長。

◆活性炭繊維(ACF)

主力の浄水器用途は、住宅設備の需要が回復、VOC除去用途の需要も回復。環境関連用途は、電子産業の好調を受け、販売が伸長。



(次頁続く)

前年の医療用ガウン需要減。他の需要は回復基調も原燃料等コスト上昇。

(金額単位:億円)

	20年上期	21年上期	増減
機能資材事業 売上高	145	168	+23
ガラス繊維	38	43	+5
ガラスビーズ関連	12	14	+2
活性炭繊維(ACF)	9	11	+2
不織布	47	53	+6
産業繊維	39	47	+8
機能資材事業 営業利益	3	0	▲3

(続き)
□機能資材

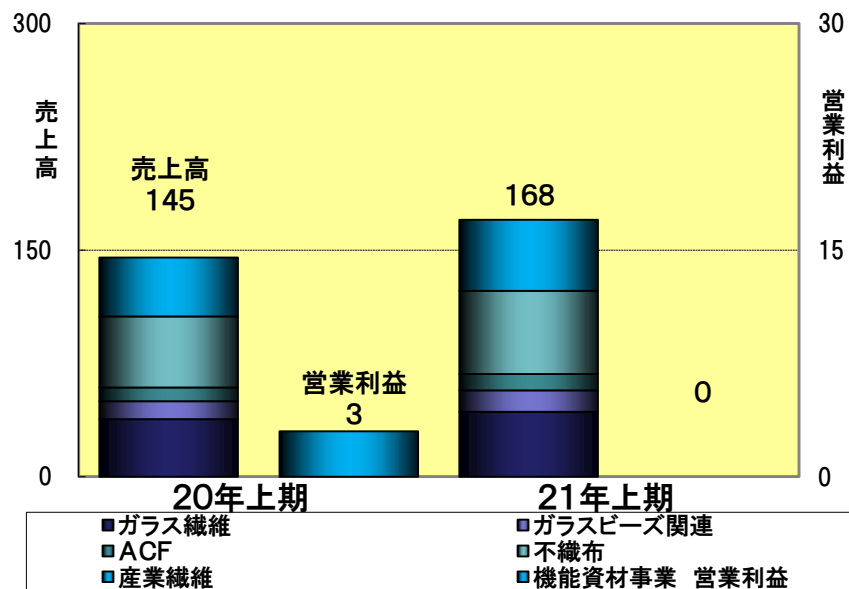
◆不織布

前年に旺盛であった生活資材用途の医療用ガウンや衛生材料用途の除菌シートなどの需要は落ち着く。

一般産業資材、建築用途は、新型コロナの影響による前年の需要減少から緩やかに回復、自動車用途は半導体不足等の影響により販売が減少し、スキンケア用途は、人流抑制により低調に推移。

◆産業繊維

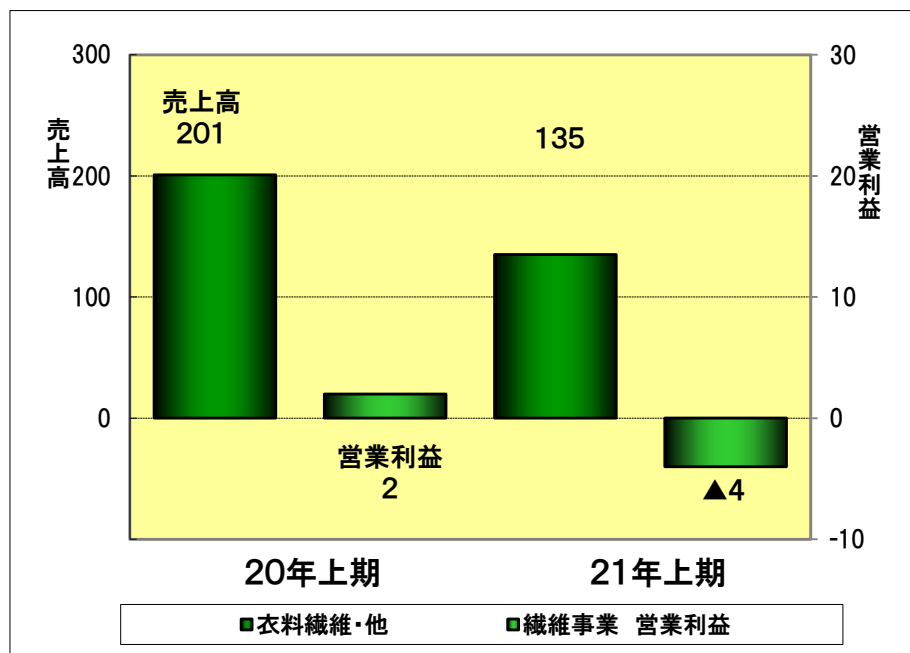
短繊維は、海外向け及びフィルター用途が好調に推移し、ポリエステル高強力糸は、建築土木用途で、新型コロナの影響による前年の需要減少から緩やかに回復するなど全般的に販売は伸長。一方で、原燃料価格の上昇や海上物流の混乱によるコスト上昇の影響を受け苦戦。



新型コロナ影響による需要減少続く、医療用ガウン需要も減少し苦戦。

(金額単位:億円)

	20年上期	21年上期	増減
繊維事業 売上高	201	135	▲66
衣料繊維・他	201	135	▲66
繊維事業 営業利益	2	▲4	▲6



□繊維・他

◆衣料繊維・他

新型コロナの感染拡大の影響を引き続き大きく受ける。

主力のユニフォーム分野は、需要回復の兆しが見られる一方、レディス・スポーツ・寝装などの他の分野は、厳しい状況で推移。また、前年に旺盛であった医療用ガウンの需要が落ち着いたことにより、収益が減少。

1. 2022年3月期第2四半期決算概要

2. 各事業セグメントの状況

3. 2022年3月期通期業績予想

2022年3月期通期業績予想

(金額単位:億円)	2020年度 通期実績	2021年度 通期予想 (11/9 修正)	前年比 増減
売上高	1,104	1,165	+61
営業利益	60	66	+6
経常利益	54	54	0
親会社株主に帰属 する当期純利益	39	40	+1

前提	2021年度 下期
原油 (\$/バレル)	70
為替 (円/\$)	110




セグメント別業績予想

(金額単位: 億円)	売上高			営業利益		
	2020年度 通期実績	2021年度 通期予想	増減	2020年度 通期実績	2021年度 通期予想	増減
高分子事業	414	517	+103	57	68	+11
機能資材事業	296	345	+49	8	2	▲6
繊維事業	393	302	▲91	▲4	▲4	0
その他	0	1	+1	▲1	0	+1
合計	1,104	1,165	+61	60	66	+6

※ 2021年度業績予想については、「収益認識に関する会計基準」を適用しています。

補足資料

主要施策の進捗(高分子セグメント①)

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア製品のグローバル市場拡大		インドネシア及び輸出関連の包装需要堅調	○
	バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		惣菜やレトルトコーン向けなど、販売が国内外で伸長、売上高は1.3倍に拡大。	○
	工業用ポリエステルフィルムの拡販		シリコーンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」は、売上高は1.3倍に拡大。	○

主要施策の進捗(高分子セグメント②)

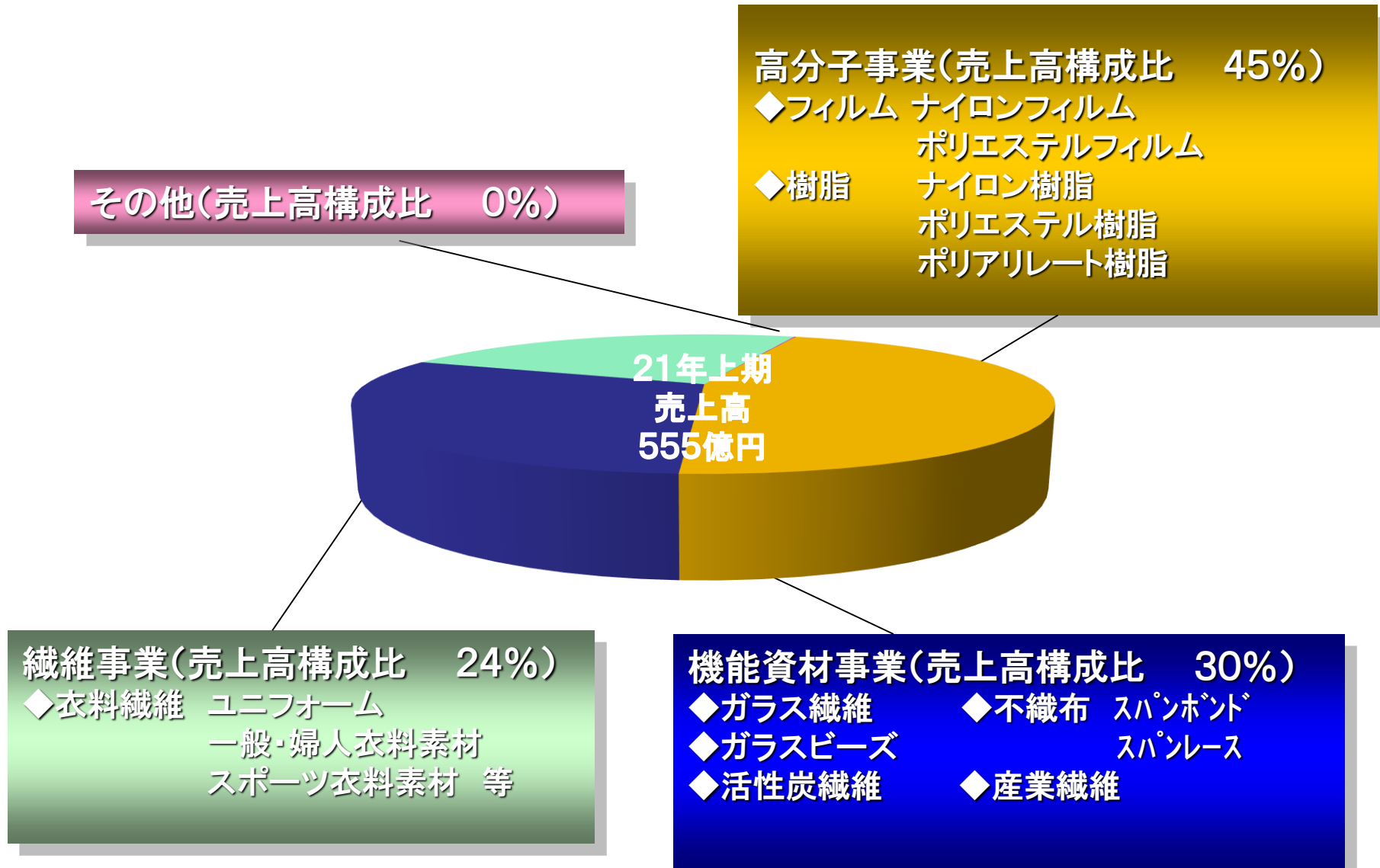
	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
フィルム	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡販		需要減少から緩やかに回復、売上高増加。	○
樹脂	「XecoT」の拡販		新たな自動車用途の開発に成功し、販売が伸長。	○
	「Uポリマー」の拡販		自動車用途や情報端末機器用途などで需要が堅調。	○

主要施策の進捗(機能資材セグメント)

	施策		進捗状況	評価
活性炭 繊維 (ACF)	浄水器用、及び空気浄化用フィルターの拡販による海外市場の開拓		主力の浄水器用途は回復、VOC除去用途の需要も回復。	○
ガラス 繊維	産業資材・電材分野(特殊クロス等)の拡販		産業資材分野は、電気電子分野関連資材用途で販売が回復、建築土木用途は苦戦。 電子材料分野は、半導体用途好調。	○
不織布	спанボンド 生活資材用途、海外向け自動車部材の拡販		生活資材用途の需要は落ち着く。 自動車用途は、半導体不足等による減産の影響を受ける。	○
産業 繊維	ポリエステル 付加価値品の拡販		主要顧客への付加価値品の販売拡大を進める。	△

※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能資材	ガラスクロス(産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材のシート化技術



ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。